

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274202486		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム アダージョ 1F		
所在地	静岡県駿河区中田4丁目6-1		
自己評価作成日	平成 27年 8月 14日	評価結果市町村受理日	平成27年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202486-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202486-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年9月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・S型ディサービス、町内の夏祭りに出店など地域との交流を図り、顔なじみの関係を少しずつですが、作っています</li> <li>・ご利用者一人一人との時間を大切にできるように努め、日曜日をレクリエーションの日にし、ご利用者との交流に力を入れる様になっています</li> <li>・職員同士で勉強会を開き、お互いに向上に努めています</li> <li>・職員が明るくご利用者に元気で接することです</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>事業所開設10年目を迎えるが、職員の過半数が創業当初から勤務しており、利用者と馴染みの関係ができていて落ち着いたサービス提供に繋がっている。利用者が自宅で暮らしているように、自由で穏やかな環境整備に努めている。外出好きな人が地域の人々の協力も得て単身の外出がほぼ毎日のように実現できている。利用者の要望に応え、職員の見守りで大切な方の位牌に毎日お線香を上げられるよう支援している。地域の防災訓練に利用者・職員全員で参加し地域の住民と交流している。地元の祭りに事業所の前で出店し、子供の好きなアイスやフランクフルト等の食べ物や、ゲームを企画し参加している。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員みんなで考えた理念のもと、サービスの提供をしている。地域密着型サービスでもあり町内の行事への参加に努めている	開設当時の職員全員で作った理念に沿って、地域へ向けて発信していることで地域から受け入れられるようになってきている。新人面接時に理念の話はするが他に話し合う機会は設けていない。新しい理念を皆で作る予定である。玄関・事務所に掲示してある。	事業所開設時に作成した理念を見直す予定があり、理念が職員の拠り所となるよう職員全員で話し合い理念を作成することに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	S型デイサービスへの参加、町内の祭りへの出店をしている。ホーム近くのお店に買い物に行くなど顔なじみになってきている	理念に基づき地域へ事業所から積極的に出かけていくことで顔を覚えてもらっていて、声を掛け合ったり、隣人からお花やお菓子の差し入れがある。中学の職場体験の受け入れ等を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加される、町内会長・民生委員の方に話をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議の中で、町内会長、民生委員、地域包括の方に報告している。また、会議録を回覧し職員もわかるようにしている	年間計画を立て、案内も出して、2ヶ月に1度の会議を開催している。内2回は家族会を兼ねていて感想や意見を聞いている。参加者は毎回ではないが、必要なメンバーの参加が得られ地域の防災、祭りなどの話し合いを行い、サービス向上に活かしている。会議録は行政に提出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には年1回だが参加してもらっている また、必要に応じ連絡をしている	生活保護受給者の受け入れをしていて、生活支援課とは連絡を取り合っている。介護相談員の定期的な訪問がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関ホールにポスターを張り意識している 夏の日中は、玄関は網戸にしている 安全上、必要と思われる時は職員で話し合い、ご家族に相談しながら期間を決め行う事もある	安心で安全な生活を維持するため、必要に応じて職員は常に検討していて、転倒不安のある人にベッドから布団に、外に出たい人に職員と一緒に出て思うままに歩けるようにしている。ヒヤリハット事例等は申し送りで共有、会議で検討し事故防止に取り組んでいる。	

静岡県(グループホーム アダージョ 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員もストレスが溜まらない様、夜間は各ユニットで状況報告するようにしている ヒヤリハットで、気付きをあげ意識している 馴れ合いの言葉になる事もあり、会議などで振り返りを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業を活用した方がいいと思われる方は、家族、市の担当者と話をして活用している。 職員間での勉強の機会はもてていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定等の際に説明をし、疑問点等を尋ねる様にし、理解・納得に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に「ご意見箱」を設けている 面会時、年2回の家族会で話す機会を作っている	面会時に日ごろの状態を報告しながら家族から意見や要望を聞くようにしている。「職員の声かけについて」の意見を、会議で振り返り改善されたことがある。聞いたことは記録し全員で共有するようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、ホーム会議で意見を聞く機会を作っている	日々変わる利用者の状態変化に情報交換し、よりよい対応を実践していくよう意見を出して、出た意見は皆で共有するようになっている。1万円以内の物品購入は早期対応し、祭りの出店の費用やゲームなど高額なものは稟議書を上げ叶えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の報告を毎月行っている ホーム内外の研修報告をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体での研修はなくなったが、各ホームで研修、勉強会の時間を組んでいる		

静岡県(グループホーム アダージョ 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事例ネットワークなどへの参加に努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人と面談を行いご本人の言葉を聞くようにしている 可能な限り、入居前にホームを見学してもらっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、ご本人、ご家族と面談を行い意見を聞くようにしている 可能な限り、入居前にホームを見学してもらっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、ご本人、ご家族と話をし必要と思われるサービスなのかを検討し「訪問マツサージ」など利用している人もいた		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に献立を考えたり、食材の買い物に出かけている 隣家への回覧板を届けてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加・協力、受診・買い物の付き添い、定期的に実家へ出かけるなど協力して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、兄弟の面会 実家への帰省、自宅で通っていたS型ディへの参加など継続出来る様に努めている	友人、職場の同僚、教会の牧師や信者の訪問などがあり、部屋で職員がお茶を用意過ごす人や居間で職員の仲立ちで過ごすことがある。信者の送迎で教会に礼拝に行っている人や家族と一緒にお寺やお墓参りに行っている人がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況をみて、ご利用者同士の会話の橋渡しを行ったり、ご利用者同士で話が出来る様になっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来ていません		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話聞き、情報を職員が共有しカンファレンスを行っている。内容によってはご家族に相談し検討している	その人らしく過ごしてもらいたい想いで「どうしたいか？」家族も交えて話し合い、実現できるよう努めている。「家に閉じこもるとストレスを感じ体調が悪くなる」と家族からの強い要望に検討し、毎日1人で図書館や買い物等に出る人に、月1日は職員が様子を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報やご本人・ご家族の話から把握するように努めている ご本人と昔話をしながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、バイタルチェック、記録などで情報を共有し、把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行いプランに対してもモニタリングしている	短期目標の3ヶ月の期間毎、全職員でケアカンファレンスを行っている。居室担当職員等・家族の意見を取り入れ、「頼られるのはうれしい」と「掃除機をかける」「自分の物の買い物に行きたい」などの本人の意見や要望に沿った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、申し送りなどで共有している。 プランのモニタリングを行う際、記録を見ながら振り返り見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医・訪問看護師に相談し、ご利用者へのより良いサービスを心掛けている		

静岡県(グループホーム アダージョ 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	S型ディサービスへの参加。 近所のお店への買い物、図書館の利用などしている 近所のコンビニへ毎週出かけ、嗜好品を購入している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族と話し、かかりつけ医を決めている。また、受診時は職員が付き添い先生との関係を務めている。ご家族が付き添い時はお手紙で情報提供をするようにしている	在宅医療専門の診療所から協力医として往診(他科受診も可能)がある。かかりつけ医に継続しながらも診療所の協力医に普段健康チェックにかかっている人もいる。協力医にない他科受診は家族が同行しているが、有料で職員が行くことがある。家族対応受診の際は情報の提供をしていて結果は双方で聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師とは申し送り、記録などで情報提供し、医療面では相談、アドバイスをもらい支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後、定期定期に面会をし病院関係者と情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状態を観ながら、ご家族に話をしている	看取り指針を作成し、家族に説明しているが意向の確認はこれからである。今年4月に同一敷地内に開業した「在宅療養支援診療所」が協力医になり、医療連携の環境が整いつつある。開設以来看取り経験はないが今後は支援に取り組むようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内にマニュアルを貼り、職員がいつでも見れるようになっている 事故・感染委員が主になり勉強会を開く様にしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っている 居間には「火災発生時」の対応を貼り常に身に入るようにしている 年1回の町内の訓練に参加し、協力を呼びかける様に努めている	年2回春と秋に火災・地震の夜間・日中を想定した訓練を行っている。1回は消防署が参加し、消化・避難訓練のアドバイスを受けている。事業所内に「緊急時の対応について」が掲示してあり、職員は情報の共有をしている。食料・水・オムツ・コンロ等の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの得意とする事を大切に、表情を見ながら声をかけている お部屋で過ごす時間も大切にしている	本人の希望の呼び名又は「・・・さん」と苗字で声かけするようにしていて、穏やかに対応している。トイレに番号をつけ「トイレに行こう」と言わず番号で伝え誘導するようにしている。「普通の暮らしをしよう」をモットーに毎日本人の希望に沿った過ごし方をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩・買い物、又は家事などご本人の希望を確認しながら支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常にご利用者の安全第一を考え、ご本人のペースに合わせる様に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入、床屋への外出など支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒に献立を考えたり、得意料理を教わったりしている 食材の買い物にも一緒に出かけている 食器拭きは、ご利用者が行っている	配達されてくる食材もあるが、利用者と買い物に行っている。調理担当職員は冷蔵庫の中を見て、調理し献立表に記入して次の担当者が重ならないようにしている。利用者は下拵えや片付け等、力を発揮している。利用者と職員は会話をしながら同じ物を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の記録を残し、バランスを考えている 食事量・水分量が確保できるように記録に残し、不足がちな時は提供するようにしている 午後は、お茶を飲まなかった人にはその方の週刊で白湯を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行っている 必要な方には支援をしている その方に合ったブラシ、歯磨き剤を使用している 状態により歯科受診をしている		

静岡県(グループホーム アダージョ 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録し、排泄パターンの把握、習慣に努めてトイレでの排泄が出来る様支援している 時間での声掛け支援を行っている	自立の人が多く、布パンツを使用しトイレで排泄しているが、排泄後のトイレ内の状況を確認している。職員は全ての利用者の排泄行為を、介助する過程を記録して共有し、対処方法を検討して夫々の個にあった方法で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量・水分量を記録し、乳製品の提供、運動時間の提供をしている 状態により主治医に相談し、便秘治療薬を内服している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声を掛け、午前・午後等入浴時間はご本人の希望に合うように努めている 入るまでは面倒がる方も、入浴後は気持ちよくなるように努めている	レクリエーションの日曜日以外は毎日沸かしている。1日3～4人入るようにしていて、湯は利用者毎に入れ替え浴槽を洗って張り替えている。入浴を拒む場合にも強制することはせず、声かけを工夫し支援している。少なくとも週2回以上入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温・照明・音など環境作りに努めている ベッドの向き等、ご本人が休まる位置を考えたり、布団の重さ、厚さ等も希望に沿うように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用など理解し、変化がある時は主治医、薬剤師へ相談している 特に薬が変わった時は記録に残し、状態の変化の把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が何に興味があるか把握し、共有しながら、買い物・図書館など支援している 気の合う職員との外出など		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションの日ドライブにいつでもいけないようなところへ出かけたり、ご家族の協力のもとデパートへに買い物、実家への外出など支援している	天候を見て散歩や外のベンチに座って外気浴をするようにして気分転換を図っている。職員と一緒にコンビニや食材の買い物等に出かけている。利用者は家族と外食などに出かけたり、レクリエーションで花見などに出かけている。	



静岡県(グループホーム アダージョ 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金については、ご家族と相談し持っている方もいる 買い物時に、ご本人にお財布を渡し支払いはご本人にして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時には、提供している 自室に電話がある方もおり、直接ご家族と連絡とれている ご家族からの手紙には返事が出来る様、声をかけ投かんまで支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	隣家から頂いた生花、写真・ご利用者の作品を飾っている 七夕・クリスマス等飾りで季節感をだし、その時代の音楽を流したりしている	エアコン・加湿器で温度・湿度が管理され、壁面は職員の手による季節感を感じる部屋飾りで明るく飾られている。机と椅子以外に廊下や居間のソファでゆったりと思いのまま過ごしている。職員の目の届く場所にある畳のスペースで具合の悪い人が横になることがある。明るく広いオープンキッチンで食事の準備中常に利用者の様子が伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を移動し、新聞・本を読んだり、気の合う人同士で食器拭き、洗濯量を話しながら行っている 自席からソファへ移動し休む方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使っていた物をなるべく持ってきて頂いている ご家族とお茶をしたり、食事が出来る様に椅子やテーブルなど不足な物は提供している	全ての居室に屋外に向けた窓が開かれており、鍵も本人が望めば自己管理でき、プライバシーも配慮されている。エアコン・クローゼット・洗面台が設置され、本人がこれまでの生活で愛用していたテーブル・椅子・筆筒・書籍などの家具や仏壇などを持ち込んでその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室、トイレなど表示しわかるようにしている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274202486		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム アダージョ 2F		
所在地	静岡県駿河区中田4丁目6-1		
自己評価作成日	平成 27年 8月 14日	評価結果市町村受理日	平成27年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2274202486-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202486-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年9月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・S型ディサービス、町内の夏祭りに出店など地域との交流を図り、顔なじみの関係を少しずつですが、作っています  
 ・ご利用者一人一人との時間を大切にできるように努め、日曜日をレクリエーションの日にし、ご利用者との交流に力を入れる様になっています  
 ・職員同士で勉強会を開き、お互いに向上に努めています  
 ・職員が明るくご利用者に元気で接することです

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員みんなで考えた理念のもと、サービスの提供をしている。地域密着型サービスでもあり町内の行事への参加に努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	S型デイサービスへの参加、町内の祭りへの出店をしている。ホーム近くのお店に買い物に行くなど顔なじみになってきている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加される、町内会長・民生委員の方に話をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議の中で、町内会長、民生委員、地域包括の方に報告している。また、会議録を回覧し職員もわかるようにしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には年1回だが参加してもらっている また、必要に応じ連絡をしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関ホールにポスターを張り意識している 夏の日中は、玄関は網戸にしている 安全上、必要と思われる時は職員で話し合い、ご家族に相談しながら期間を決め行う事もある		

静岡県(グループホーム アダージョ 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員もストレスが溜まらない様、夜間は各ユニットで状況報告するようにしている ヒヤリハットで、気付きをあげ意識している 馴れ合いの言葉になる事もあり、会議などで振り返りを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業を活用した方がいいと思われる方は、家族、市の担当者と話し活用している。 職員間での勉強の機会はもてていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定等の際に説明をし、疑問点等を尋ねる様にし、理解・納得に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に「ご意見箱」を設けている 面会時、年2回の家族会で話す機会を作っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、ホーム会議で意見を聞く機会を作っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の報告を毎月行っている ホーム内外の研修報告をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体での研修はなくなったが、各ホームで研修、勉強会の時間を組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事例ネットワークなどへの参加に努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人と面談を行いご本人の言葉を聞くようにしている 可能な限り、入居前にホームを見学してもらっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、ご本人、ご家族と面談を行い意見を聞くようにしている 可能な限り、入居前にホームを見学してもらっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、ご本人、ご家族と話をし必要と思われるサービスなのかを検討し「訪問マッサージ」など利用している人もいた		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に献立を考えたり、食材の買い物に出かけている 隣家への回覧板を届けてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加・協力、受診・買い物の付き添い、定期的に実家へ出かけるなど協力して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、兄弟の面会 実家への帰省、自宅で通っていたS型ディへの参加など継続出来る様に努めている		

静岡県(グループホーム アダージョ 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況をみて、ご利用者同士の会話の橋渡しを行ったり、ご利用者同士で話ができる様にしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来ていません		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話聞き、情報を職員が共有しカンファレンスを行っている。内容によってはご家族に相談し検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報やご本人・ご家族の話から把握するように努めている ご本人と昔話をしながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、バイタルチェック、記録などで情報を共有し、把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行いプランに対してもモニタリングしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、申し送りなどで共有している。 プランのモニタリングを行う際、記録を見ながら振り返り見直ししている		

静岡県(グループホーム アダージョ 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医・訪問看護師に相談し、ご利用者へのより良いサービスを心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	S型ディサービスへの参加。 近所のお店への買い物、図書館の利用などしている 近所のコンビニへ毎週出かけ、嗜好品を購入している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族と話し、かかりつけ医を決めている。また、受診時は職員が付き添い先生との関係を務めている。ご家族が付き添い時はお手紙で情報提供をするようにしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師とは申し送り、記録などで情報提供し、医療面では相談、アドバイスをもらい支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後、定期定期に面会をし病院関係者と情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状態を観ながら、ご家族に話している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内にマニュアルを貼り、職員がいつでも見れるようになっている 事故・感染委員が主になり勉強会を開く様にしている		

静岡県(グループホーム アダージョ 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っている 居間には「火災発生時」の対応を貼り常に身に入るようにしている 年1回の町内の訓練に参加し、協力を呼びかける様に努めている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの得意とする事を大切に、表情を見ながら声をかけている お部屋で過ごす時間も大切にしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩・買い物、又は家事などご本人の希望を確認しながら支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常にご利用者の安全第一を考え、ご本人のペースに合わせる様に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入、床屋への外出など支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒に献立を考えたり、得意料理を教わったりしている 食材の買い物にも一緒に出かけている 食器拭きは、ご利用者が行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の記録を残し、バランスを考えている 食事量・水分量が確保できるように記録に残し、不足がちな時は提供するようになっている 午後は、お茶を飲まなかった人にはその方の週刊で白湯を提供している		



静岡県(グループホーム アダージョ 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行っている 必要な方には支援をしている その方に合ったブラシ、歯磨き剤を使用している 状態により歯科受診をしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録し、排泄パターンの把握、習慣に努めてトイレでの排泄が出来る様支援している 時間での声掛け支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量・水分量を記録し、乳製品の提供、運動時間の提供をしている 状態により主治医に相談し、便秘治療薬を内服している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声を掛け、午前・午後等入浴時間はご本人の希望に合うように努めている 入るまでは面倒がる方も、入浴後は気持ちよくなるように努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温・照明・音など環境作りに努めている ベッドの向き等、ご本人が休まる位置を考えたり、布団の重さ、厚さ等も希望に沿うように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用など理解し、変化がある時は主治医、薬剤師へ相談している 特に薬が変わった時は記録に残し、状態の変化の把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が何に興味があるか把握し、共有しながら、買い物・図書館など支援している 気の合う職員との外出など		

静岡県(グループホーム アダージョ 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションの日にドライブにいつでもいけないようなところへ出かけたり、ご家族の協力のもとデパートへに買い物、実家への外出など支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金については、ご家族と相談し持っている方もいる 買い物時に、ご本人にお財布を渡し支払いをご本人にして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時には、提供している 自室に電話がある方もおり、直接ご家族と連絡とれている ご家族からの手紙には返事が出来る様、声をかけ投かんまで支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	隣家から頂いた生花、写真・ご利用者の作品を飾っている 七夕・クリスマス等飾りで季節感をだし、その時代の音楽を流したりしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を移動し、新聞・本を読んだり、気の合う人同士で食器拭き、洗濯畳を話しながら行っている 自席からソファへ移動し休む方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使っていた物をなるべく持ってきて頂いている ご家族とお茶をして、食事が出来る様に椅子やテーブルなど不足な物は提供している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室、トイレなど表示しわかるようにしている		